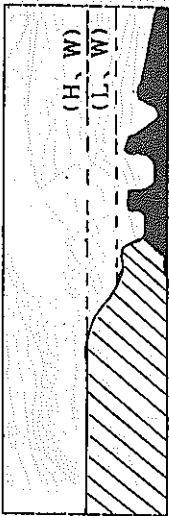


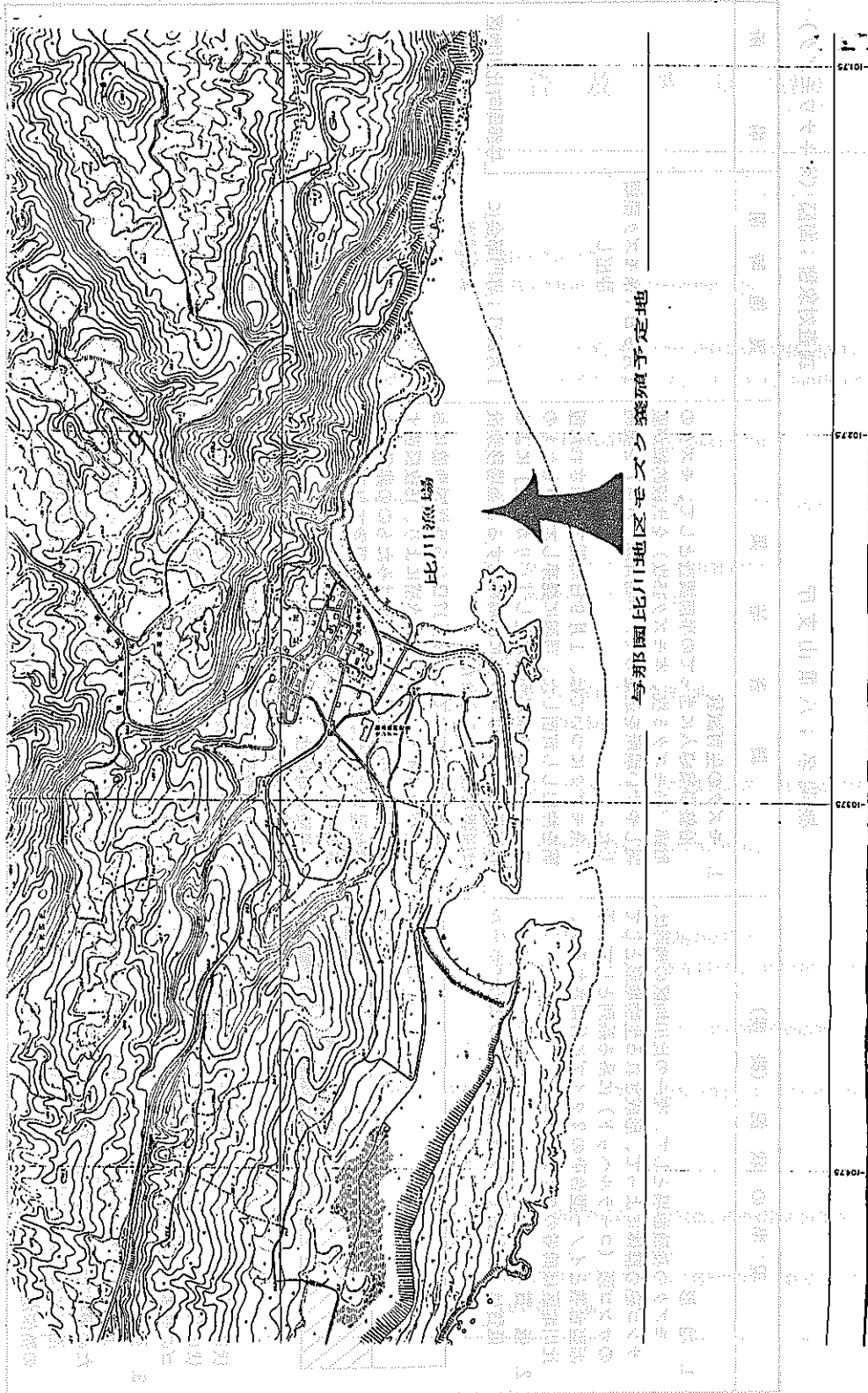
与那国地区現場調査結果報告 (八重山地区水産振興協議会関連事業)

(与那国地区におけるモズクの漁場調査及び生育試験)

機関名：八重山支庁

調査対象種：海藻 (オキナワモズク)

現場の状況 (概要)	調査結果	実施時期	場所
<p>1. 地形 モズクの養殖漁場として、唯一の比川地区の地形は、サンゴ礁の群体によって、形成される生物地形としてのサンゴ頭 (コラールヘッド) に係る系列として、干潮型台礁とイノー型台礁の2タイプに分類されるが、比川地区は前者のタイプである。</p> <p>2. 低質 低質は、砂利質でアジモが点在し図のようにホール状に凹凸が著しい。水深も1m~5m前後で沖合の棚状に形成されるリーフより深くなって転石やサンゴの群体が点在する。</p> <p>3. 養殖漁場としての可能性 上記のように、低質が「ホール状」を呈している。ため現状では網張りの展開が困難である。沿整による漁場造成事業を導入し、養殖漁場としての整備が必要である。</p> 	<p>1. モズクの生育試験 沿整事業導入に当たっての事前調査として、モズクの種網 (糸モズク5枚、本モズク15枚) を比較的網が展開しやすい場所を選定して、中間育成 (育苗) を実施した。 糸モズクについては、1月9日鳩間で採苗された種網を沖出しし育苗した。順調に発芽し本張りしたものの、大雨により漁場が淡水化し「バリカン症」による成育不良のためリーフ側に漁場移動する。漁場移動後は順調な成育がみられた。 本モズクについては、2月17日から与那国漁協においてパンライト (0.5トン) 水槽により、15枚採苗する。沖出し後4月10日現在発芽はみだものの非常に生育が遅いようだ。これは、全泉的な現象で日照不足や淡水化による低比重が原因と思われる。</p> <p>2. 養殖の可能性 概要で述べたように養殖漁場としては現状では困難であり、整備の必要がある。整備後の可能性については、今期だけでは結論づけたいがこれまでモズクの生育が全くみられなかった海域に種網を展開することによりモズクの成育が確認されたことは、大きな成果である。 *雨天時の養殖対策として「浮流し養殖」への展開がある。この方法は通称ベタナガシ養殖とも言われ養殖網の深さの調整が容易であり雨天時の日照不足対策が可能であり、各地区で試みてはどうか。</p>	<p>1月9日；糸モズク種網 沖出し</p> <p>1月20日；専門部会による調査</p> <p>2月17日；本モズクの 採苗開始</p> <p>3月1日；本モズク種 網沖出し</p>	<p>与那国町比川地区</p>



比川漁場

与那国比川地区モズク養殖予定地

1:10,000